

福居



福井商工会議所青年部会報

卒業生、栄光の軌跡

(五十嵐清人さん自主残留か?)

連載「市民のオアシス 足羽川ものがたり」(最終回)

「エンジョイ・アートライフ」(最終回)

Vol.77

発行日/平成8年3月25日発行

発行所/福井商工会議所青年部

福井市西木田2-8-1

TEL:0776-36-8111

FAX:0776-36-8588

発行者/松村 顕

編集者/吉野 弘美



奈良商工会議所青年部、当青年部例会訪問

卒業生、栄光の軌跡



門嶋久雄さん

青年部の楽しかった思い出はたくさんありますが、とりわけ翔生ゴルフクラブのコンペは毎回心待ちにしておりました。初めの頃は、いつもビリかブービー賞、これでは男がすたると一昨年教室に通いはじめ、昨年優勝できた時は、中学生の頃陸上競技を頑張っていたころの興奮を思い出させてくれました。本当に嬉しかったです。委員会の方では、あまり一生懸命ではなかったかもしれませんが、楽しい思い出、多くの人の出逢いがありました。各委員会の皆さん、これからも頑張ってください。何か答えが返ってくるものと信じております。長い間、ありがとうございました。

送る言葉

竹下英二郎

「ナイスショット！門嶋さん、腕上げられましたね。」翔生ゴルフクラブのコンペ（青年部のゴルフクラブ同好会）のティールランドでのわたしの言葉です。飛距離十分、ボールはフェアウェイまん中へ。確かちよつと前までは、こんなに上手ではなかったのに。（竹下「少しあせる」ちよつとびりくやし）それは、日中の仕事を終え、いくら疲れているようが、ゴルフスクールに熱心に通った成果なのです。門嶋さんの努力には感服。今や、当クラブで一番メキメキ上達している方です。その人柄は、何年前か、ハートランドが木田橋付近で開催された時、モニメントに使ったたたくさんの竹を、雨の中、ヘルメットをかぶりカッパを着て、たったひとりでもくもくと後片付けをしていたことにも結びつくのではないのでしょうか。門嶋さんは、私の高校の先輩でもあり、私が結婚する時や、現在の結婚生活にも、適確なアドバイスをしてくれました。ありがとうございます。最後に淋しいですが、卒業、心よりおめでとございます。しかし、翔生ゴルフクラブには卒業はありません。当クラブ同様、青年部も末永いお付き合い宜しくお願いしますと共に今後の益々の御活躍と御発展をお祈りいたします。

卒業生、栄光の軌跡



石橋正人さん

「石橋君この会に入れ！」先輩である淡島氏よりの一言で入会させて頂いた商工会議所青年部。あつと言つ間の十六年間だつた。入会して一年後、夏祭りや青年部のおみこしを二十万円かけて作ったというのを聞かされ、それなら次年度はもっと有意義なおみこしを……との思いで「若越光の村」の子供達にみこしを作ってもらい青年部のメンバーがかつた。会場にはコロニーの子供達を招待し祭りを見学してもらい、賞の喜びを分かち合った。自分としては最高の企画だったと思う。あの熱い思いが僕の一つの青春だった。今のフェニックス祭り、中でも「何でもおみこしコンクール」は自分が作ったと自負している。入会当時、人前で全く話ができなかった。今でもまだまだ人並みに話が出来ないが、しかし、青年部での経験が今の自分を作ってくれたのは間違いない。青年部の諸先輩、同僚、後輩またお世話になった事務局の皆様、心より感謝申し上げます。卒業させて頂きます。

送る言葉

苅安浩道

私が青年部に入会した約九年前、石橋氏は福井で行われた全国大会も経験して、幹部候補生でした。第二回ハートランド（木田橋上流おさこえ民家園会場）では、会社のテントを提供され、その時ハートランド担当の副会長だったと思う。又、その他の事が記憶にキリがなかったように思っている。私は青年部活動の出席率が非常に良い。又、石橋氏も良いはずだが、なぜか活動の印象が薄い。又、石橋氏アルコールはまったくダメでも、片町には毎日出席とのこと。今だにこの話は謎となっている。一時、会長候補生の声も上がっていたように思われるが……しかし、私も石橋氏と同じく他の団体に入っているが、そこではH4、5年と二年会長を立派に努めておられる。年齢のことだが、それまで私より七、八才上だと思っていたがなぜか本年三月卒業とのこと。一才しか違わないとは、それも謎か現実か……入会当時は人前での話が苦手そうだったが今では青年部でもトップクラスの話ができるようになった卒業されるので、石橋氏にとつて青年部は有意義だったのではと思う。最近の思い出は、私が会長の時、ハワイの海外研修に出席されセンスの良いブランド品を大量に買わさっていたのを覚えている。又、フリーの時、二人でロブスターとステーキを半分ずつ皿をつき合っていたのが昨日のことのように思われる。どうか卒業されても、あじさい会会員として青年部をよろしくお願い致します。

卒業生 さい下 入 れ て



落合和博さん

三年前の加入時には我ながら（恐らく皆さんも）随分年配だなと思つたものですが、やはりあつと言つ間の卒業になりました。二年前事情により空白があったとは言え、委員会活動も特別出来ず、所属委員長であった野坂さんや橋さんの期待を裏切りっ放してました。私が青年部に期待したのは、社会的・経営的な自己研修と、他業種の方との交流の場でしたが、その意味では例会は比較出席し、平成五年七月の東京での商青連経営セミナーにも参加させて頂きました。講演自体も印章深く、会場当時の松木会長にばったりお会いし、小浜の田村さんを紹介して頂いたり、帰りの新幹線で会長とのいろいろのお話で楽しい時を過ごした事、等が思い出されます。ほとんどお役には立てませんでした。今後何かのご縁がありましたら宜しくお願ひしたいと思います。

送る言葉

橋敏夫

東京で商青連研修会があり参加し、帰りにいろいろ話をし、副会長だったこともあり「ぜひ例会もご出席を。」とお願ひしたのですが、その後は会員手帳でお会いするだけの幻の「福岡」でした（松木談）。私にとつても同じ委員会にいながら寂しかったですね。今後は「あじさい会」でのご活躍や交流会等でお会いできることを期待します。パソコン通信も教えてね。



神門博さん

私が商工会議所青年部へ入会したのは、東亜工業福井営業所所長が独立され上司がいなくなって、いろいろと心配事が多かったとき、かわむら建築事務所所長に、入会を進められました。私自身は滋賀県生まれであり人脈がないため、これは良い機会だと思ひ入会いたしました。入会して一番思い出に残っているのは、林会長の時の秋色、ときめき、ハートランドの足羽川ハートランドコンサートおさこえ民家園のアート展が行われ、私はそのとき（有）エフオーシステム佐々木様と一緒に屋外アート展・絵画展を担当させて頂きました。この一つのイベントに参加して異業種の方々が利害に関係なく、協力していただいたこと、またさくら植樹運動など、目的意識を持って福井市民のために努力されていることに感動しました。その後は、あまり出席できませんでしたが、青年部の一員として誇りを持って仕事その他が出来ました。福井商工会議所青年部の今後の活躍をお祈りいたします。

送る言葉

佐々木清史

私がYEGに入会して、約二年目ぐらいの平成元年頃、河村先輩の推薦にて、神門さんがYEGに入会された記憶があります。一番思い出として記憶に残っている活動は、市民の広場からハートランドという形に移っていく頃の県庁お堀・中央公園・おさこえ民家足羽川での「広場アート展」での県内若手芸術家の作品の設営を二年程一緒に行なつた時が記憶に残っております。その他桜ルネッサンス・越前時代行列・ソフトボール大会・スキ交流会等、例会後の二次会等、YEG事業にたいへん熱心に活動されました。卒業後もぜひハートランドには、ご家族で寄つて下さい。お待ちしております。

中期国債ファンド・MMF

林茂証券

本店・福井 営業所・大野・鯖江・三国・小松・金沢

■基本設計・総合プロデュース・内装総括管理・内装工事

santen CORPORATION

株式会社 サンテン・コーポレーション

福井市成和1-3112〒910
TEL 0776-27-0910 FAX 0776-27-0972

卒業生、栄光の軌跡



佐野政人さん

青年部に入会して以来、早いものでもう卒業する年になりました。青年部の行事に参加した事などは、いまでは楽しい思い出となりました。今後は、青年部で学んだ事を胸に、これから人生の糧として、さらに努力、自己研鑽に努め、頑張りたいと思います。本当に長い間、有りがとうございました。

送る言葉

松村 顕

えっ、もう卒業。

知らぬ間に過ぎ過ぎていく。佐野政人という人間を知ったのは、私が新入会員として共に前にならなるとき。思い出すと、それは全国大会にむけて福井YEGが丸となって取り組んでいた時代で、彼は、福井全国大会の数少なくなった残党のひとりと言えよう。

彼はどちらかというとYEGの裏方で活躍した縁の下の力持ちだったように思う。特に現在も続いている『福居』の創成期に委員長としてかわり、暗中模索の中YEGの広報紙の土台を作った最大の功労者である。

ともあれ、誰もが認める佐野さんのキャラクターを失うことなく、永遠のYEGメンバーとして、今後も活躍されることを祈ります。



角 義 博さん

私が入会いたしましたのは、バブル経済崩壊後の平成三年で、この間、日本経済はかつてない危機に遭遇いたしました。ここへ来てようやく明るさが見えはじめてまいりました。私自身証券業に身を置き痛切に感じた次第であります。

月一度の例会、委員会に出席し、これまでマスメディアでしか得ることの出来なかつた情報が、先輩諸氏の御意見を身近に聞くことよって得難い経験をする事ができました。特に、私が席を置いた「市民の広場委員会」では、震災と震災二度に亘り壊滅的な被害を受けた県都福井市の街づくり、二十一世紀に向けた街づくり等に私なりに参加させて頂いたのは、会員の皆様の御指導の賜でありました。

退会にあたり、福井商工会議所青年部をはじめ皆様様の更なるご発展を心からお祈り申し上げます。本当に有難うございました。

送る言葉

清水 多恵治

角さん、卒業おめでとうございます。市民の広場委員会にてのフォーラムにおいて、角さんと寸劇を演じたことがとても印象深く私の心には残っております。リハールはほとんど無く、ブツケ本番に近い形で劇にもかかわらず、なぜか予想以上に上手くでき、角さんと息の合った所をフォーラム参加の皆さんにお見せできたのが、なつかしく思います。

また、入会したばかりの私を親切にリードして頂きありがとうございました。当時を思い返せば、先輩ばかりの中、ロクに雑談もできない程緊張していた私に、気軽に話しかけて頂き、青年部の和の中に溶け込ませてくれた優しさに感謝しております。

これからも、私達青年部のメンバーと街で出会ったら、変わらない温かみのある態度で声を掛けて下さい。今後ますますの御活躍をお祈りいたします。

青 年 部 、 卒 業 し た ら あ じ さ い 会



砂河正光さん

今まで数少ない活動(自分自身参加する事が少なかった)の中でもたくさんの思い出がありますが、私自身いろいろ仲間にも助けられそれでもわがままを言いつづけてやって来られた事に対して非常に感謝しています。

今となって反省というか悔いの残る事ばかりで青年部の皆さんに送る言葉等言える立場ではありませんが、言えると思えば人は皆いろいろな人から助けられる事で生かされているのだと思います。

そういう意味においても青年部に限らずお客様、社員、家族すべての人々と少しでも多くのかかりあい(参加)を持って有意義な人生、又、悔いのない人生を送って下さい。

私自身四十五才になったばかり卒業しても今からまだまだ皆さんに会う機会もあるかと思えます。皆さんに知りあえた事に感謝して送る言葉にいたします。

送る言葉

三村 貞二

砂河さん、ご卒業おめでとうございます。貴方とは、平成二年に入会されてすぐの会員委員会からのお付き合いとなり、とても印象深く思っております。

ご出身が富山で、単身こちらに赴任され、何かと不自由の中、青年部に身を投じられ、会員委員会を始め、地活委、会員拡大委……総務委など数々の委員会でご活躍されました。地元の方でも、仕事以外に地元の活動をする事が難しいというのに、砂河さんの足跡は、残された我々現役会員の範として大事にさせていただきます。越中訛りで、夜な夜な行き場のないまま片町界限をうろつく変なおじさんでしたが、卒業後も、ご自身の為、福井の為に一肌二肌も脱いで頂きます様ご祈念申し上げます。送る言葉といたします。



松木 延 倫さん

平成元年、林(H元、二年度)会長の紹介で入会させていたから、地活委員、委員長、副会長、会長と一直線に通って抜かせていただきました。

思い返すと、副会長までは、「青年部のためになる」と考えたことを、ただ、一生けんめいにやっていました。

さすがに会長の話になったときには「私のような個人業者が……とずいぶん悩んだものでした。もちろん、『時間を守り、委員会活動を定着させ、分散化した各活動を全員に把握してもらうことよって青年部のさらなる発展を計りたい』という私自身の思いいれもありました。

卒業間近になって、立場は経験してみなければ学べないこと、たよりにしていい人、実行すべきタイミングなど、今まで見えなかつた数多くの「目」を得ていたことが解ってきました。七年間、ほんとうにありがとうございました。

送る言葉

永井 弘明

松木さん、ご卒業おめでとうございます。

振り返ってみると、彼ほど短期間にYEG活動に邁進し、委員長から会長と要職を歴任された人を私は知りません。それは会員皆が認めるように、彼の聡明さと共に、活動に対する情熱がエネルギーになっていたように思われます。彼が青年部に果たした功績の内、特に印象に残っているのは、それまでイベント開催する場所として適さないと考えられていた東大通り(駅東)で、道路を封鎖してのハートランド開催の実現に努力されたことです。また、近畿ブロック大会、二十周年記念事業といった大事業を支えた功績も忘れられないことです。会員の一人として感謝いたします。今後は色々な社会活動を通じてYEG精神を社会に広めていって下さい。期待しています。

福井コンピュータ株式会社

代表取締役社長 小林 眞

本社 〒910 福井市高木中央1-2501
TEL (0776) 53-9200(代) FAX (0776) 53-9201



全国ネットで新・中古部品をお届けするNGPグループ

オートパーツセンター **大和自動車(株)**

〒910 福井市文京6丁目27-10
TEL.0776-23-1017(代)/FAX.0776-23-9088

Y・E・G 活動報告

12 月 度 例 会

例会委員会副委員長 小林久則

12月20日(木)国際ホールにおいて、平成7年度福井商工会議所青年部定期総会が行われました。その後、コンセンサスゲーム(究極の選択/あなたならどうする。)を開始。

今までに他でのコンセンサスゲームは体験があっても、例会では初めての試みとか。テーマはウィンターサバイバル。悪天候の為飛行機が不時着、そして15の品物が使用可能。あなたなら重要度の高い順番をどのように付けますかという内容でした。

各テーブルに7~8人に別れてすわり、まず1人で順位づけを…。一つ考えこむとつきからつきへと疑問が…。そして今度はテーブル(グループ)での順位づけ。これもまたケンケン、ガクガクと。最後にグループ別発表そして解説、解答。ほとんどのチームは生き残れるという結果。でも私が入ったテーブルは、どういふことか確実に全員死亡の道を選んでしまったようでした。

このゲームの狙いは、1人での案よりも複数人で考えた案の方が良い結果を生むということで、参加者全員いろいろ考えさせられるものがあってと思います。



1 月 度 例 会 (会 頭 と 語 る 会)

例会委員会副委員長 小林久則

青年部恒例「会頭と語る会」が1月25日(木)コンベンションホールにて開催されました。松村会長、及び市橋会頭からの挨拶の後いよいよ「語る会」の始まりです。

今年は少し試行を変えて、まず青年部の活動を知っていただくため、ハートランド事業・市民の広場フォーラム事業の二つを説明した上で会頭からコメントを頂くという形を取りました。今回は会頭に加え、福井商工会議所理事・総合企画室長・田原英郎様、同じく産業振興部長・野村有三様も参加され、今までになくいろいろな点について話し合いがいき、また知り合える良い機会だったように思います。そしてその後次年度会長の野阪現副会長より次年度の青年部活動の説明を聞いていただき、「ぜひがんばって」と会頭の言葉で会が終了へと…。

これからも毎年、試行を変えながら開催していきたいものです。



2 月 度 例 会

例会委員会副委員長 牧野利幸

2月度例会は、2月28日(木)国際ホールにて、OB会であるあじさい会の方々や奈良商工会議所青年部の方々にもご参加頂き盛況のうちに開催されました。

講師に福井県出身の大和総研 経済調査部部長・原耕平氏をお迎えして「動きだす日本経済」と題して講演が行われました。日本経済の現状から地球的規模の経済に至るまで、いろいろな角度からの見識深いお話で、1時間やそこで話つくせない感じでした。

また経済外論クイズとしてクイズ的テストを行ない成績優秀者に豪華商品が送られました。

最後に奈良商工会議所青年部より11月15日~16日に行われる全国大会への参加依頼があり、その後二次会にて奈良青年部と交流を深めました。



第12回 県連会員大会「粋な町」あじわい発見

広報委員会 清川卓二

第12回県連の会員大会は小浜で開催された。136名(福井22名)の参加者の中、今回のテーマである「粋な町」小浜のあじわいを満喫できる大会であった。

私の感じた小浜の「粋な町」とは、昔ながらの地の文化、食の文化を大切にす一方で、地域社会のために最先端の技術を受け入れるなど、古の文化と新しい文化がうまく調和された地域であると感じられた。

粋な町であることをあじわさせてくれたのが、シンガーの高石ともや氏であった。高石氏は、小浜の粋さに惚れ14年住み、小浜で数多くの歌を作られたそうである。会場は、高石氏の歌により会員全員が青春時代の瞳に戻り、話により小浜の地域性を再確認した一時であった。

懇親会に移り、小鯛のしゃぶしゃぶ、鯖の姿煮等食の文化を満喫し来年度の大会予定地の勝山青年部へエールが交換された。

大会の余韻を残しつつ、バスで帰る途中のトイレタイムには、参加メンバー10人程が、高石氏の曲を口ずさみながら一列で放水をする「粋な光景」で締めくくった1日であった。



“足羽川ものがたり”

第5回



戦前の、古きよき思い出の足羽川

笠島清治

この「足羽川ものがたり」も最後となりました。そこで、今回は、青年部のみなさんのおじいちゃんおばあちゃん、ご両親が若かりしころの足羽川について、思い出すままに書いてみます。

1. 戦前は、現在のような大きな公園やレジャー施設がなかったので、いろんな催しものは足羽川の河原で開かれました。

その一つは、毎年の夏、九十九橋の南詰河原で興行された大相撲でした。当時の大相撲は一月と五月の2回しか本場所がなく、あとは地方巡業だったのです。福井市に今年も大相撲がやってくるというチラシが張りだされると、相撲好きな父とわたしはたまりません。前日の触れ太鼓が鳴るのを心待ちにしたものでした。

そのころは、現在のような野球やサッカーは一般に普及せず、ただ、大相撲だけが人気を独占していたのです。名横綱双葉山の全盛時代でしたから、その人気たるやイチロー×カズ以上のものでした。

といっても、小学生のわたしが見上げると、双葉山は大きな図ッ体の腹の先に鼻がちょっと見えるという程度でしたが、それで大満足だったのです。土産に買った軍配は何よりの宝ものでした。

2. 夏の名物は九十九橋下流での花火大会でした。花火大会は大変な人出で、花火のおわったあとの楽しみは、賑やかだった本町通りの松岡軒で、かんなで削ったガチガチの氷水を食べることでした。広くて大きな店内には人工の滝が流れ、この氷水を食べるのがわたしどもの真夏の風物詩でした。

3. いまなら市連合体育大会は運動公園で開くことにまわっていますが、当時は大きな運動場はなく、足羽川上流の荒川との合流点近く、鉄橋より少し上がった右岸の調練場(ちょうれんば)が、ただ一つの運動場だったのです。わたしは、体が弱かったためか、あまり競技した思い出はないのですが、ここで西住戦車隊を見学したのは、はっきり覚えています。年配のお方に一度聞いてみてください。きっと目を輝かして思い出を語っていただけるでしょう。

4. 現在の堤防の桜の木は、1945(昭和20)年以後に植えられたものです。戦後50年の歳月は、その桜木を老木化し、いくたの風雪によって枝ぶりも河原の方に伸びて、いまや全国名桜百選に選ばれるまでの貫禄をつけてきました。ふるさと福井を離れて都会に住む人たちにとっては、この堤防の桜こそ、忘れ難い思い出のページなのです。樹木を知る人は「桜折るばか、梅折らぬばか」といいます。何としても、福井市民なら老いも若きもみな知っている、この足羽川堤防の桜木を守っていききたいものです。

その意味で、青年部のみなさんが、この数年、協力してこの桜木を大切にす運動を展開していることは評価されて当然とおもいます。

足羽川の流れは永遠のものです。いろんな歴史の変遷を経て、いつまでも福井市民の心のオアシスに成り得るためには、いま生きている私たち全員が、足羽川に責任を持つことが大事だといえましょう。



足羽川の遠望の写真

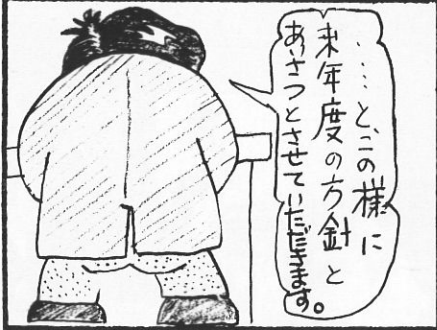
今、日本では、住専問題を国民の血税で解決するか否かで騒いでいます。所得税、酒税、資産税等、国民が負担している税金は数多くあり、戦後の財政の中で税金を投入して解決した例も過去の歴史の中ではたくさんあると思います。過去の色々な問題は結果的には自民党と主に社会党の妥協の中で解決されており、国民は政治家まかせにしていた節がありますが、五十五年体制が崩れ、イデオロギーによる対決が終わった今、より核論による議論で国策が決定して行くものと考えます。

衆議院の選挙制度が変わり、今年はその一回目の選挙が行われると思いますが、私を含め、青年部として国のあるべき姿、日本の中の地域あるべき姿について、個人が、悩み考え、政治に参加して行かなければならないと考えます。視点が少し大きすぎるかもしれませんが、やはり今出来ること、今やらなければならぬことを着実に行動に移すことを青年部として引っぱって行かなければならないと思います。

青年部に入ってもうすぐ二年になりますが、まだまだ青年部活動を理解できていない私ですが、まずは参加することでより理解を深め、自分を高め、地域発展に貢献して行きたいと考えます。

Show Seiが行く!!

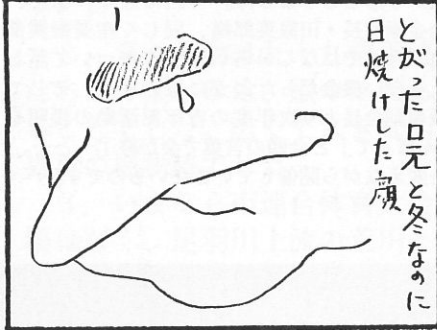
作 加藤 加藤



……この様に
来年度の方針と
あやつらせていただきます。



キリッフルの光る髪。



とがった口元と冬なのに
日焼けした頬



そう、私がおのーさん
来年度の方針です。

☆来年度の「のーさんが行く」をおたのしみに。

研修副委員長 真木 康至

「かんたん美の楽しみ方」

さて、今回は、かんたんな美の楽しみ方を書いてみよう。やはり、美術・芸術にはあまり親しみのない方のセリフに一番多いのが、やはり「わからないから」と言う。もともと絵は数学の試験と違って点数がつけられないので、イイかわルイかは、本人の判断による。しかし回りを気にするので、自分が判断した絵が（たとえばキラいな絵）が有名な人の絵だったりしたら、見識眼が疑われてはすかしと言いう事がある。自分に自信がなければ、無難に言葉をにごしておくのが一番いいと思ってしまう。しかし、別にいいではないか。「スキなものはスキ」「キラいなものはキライ」「きれいだと思えばきれいだ」すなおに自分の感情を出してみよう。感情の出し方も、自分が幼稚園くらいまでどつたつもりになって判断するとまずまちがいない。と思う。子供の心になってよく見る。心の奥に何か感じれば、それをすなおに口に出してみる。（目玉焼を二つつくって皿に盛りつけてソーセイジの一本もあれば、子供はかならず顔ができた。と言ってはしゃぐだろう。あの時の子供心に自分を同化させてみるとよい。）

そして、たくさん作品を見る。また展覧会に行ってもすべての作品をキチッと見る必要はない。全体をザッと見て、その中で最高に「これ」「好き」「キレイ」とか「ひっかかる」ものをジッと見て、自分の心の中に受け入れてみよう。そして、少しかが言葉にしてみよう。なにかが出てくるはず「わからない」と言う言葉以外のなにかが。

最後に一年間にわたり、美術の事を書いてきました。少しは美術・芸術に興味をもっていただけようになりましたでしょうか。自分の回りには自然を含め、いろんなところに美はたくさんあります。ほんの少し興味をもって生活してみてください。読んでいただいて、本当にありがとうございます。

編集後記

無事、平成七年度、最後の「福居」を、発行することが出来ました。これも偏に青年部皆様のご協力を頂いたおかげです。ありがとうございました。また、一年の長きに渡り連載させて頂きました「市民のオアシス足羽川ものがたり」の笠島先生、「エンジョイアイトライフ」の真木さん、大変お世話になりました。足羽川にまつわる福井の歴史や福井の文化事情を知ることが出来て、大変おもしろく読ませて頂きました。もう一人、最後になりましたが、「Show Seiが行く」の加藤さん、マンガを通し、会員の特徴を鋭くとらえ、皆様に話題を提供して頂きました。当初の目的は十分達成出来た会報となった事をご報告し、お礼申し上げます。

広報委員長
吉野 弘美